

横須賀建具木工協同組合 創立50周年記念式典

半世紀を経た組合活動を祝福

小泉衆議院議員が記念講演



創立50周年記念式典の様子

横須賀建具木工協同組合（佐久間和男理事長）は9月8日、神奈川県横須賀市のよこすか平安閣にて創立50周年記念式典・記念講演会・祝賀会を開催した。

記念式典の冒頭、主催者を代表して佐久間理事長が挨拶。「昭和34年に前身団体である横須賀建具組合が発足し、任意団体として活動を経て、昭和44年に横須賀商工会議所において組合法人横須賀建具木工協同組合の創立総会を開催し、法人化した。その後、事務所用地を取得し、組合員出資による（株）横須賀建具アルミセ



横須賀市に寄付贈呈

ンターを設立。サッシ事業を開始し、同時に共同購買や労働保険事務も行い、事業を進展させてきた。組合創立50周年に当たり、創立当時の様子を聞いて回ったが、組合創立に携わった諸先輩方の尽力に改めて敬意を表したいと思う。今後とも我々が組合を継続していくことをここに誓い、挨拶とさせていただきます」と、同組合の歴史を振り返り、先達への感謝を述べると共に、今後の発展に意欲を示した。

来賓祝辞では、上地克明横須賀市長が「宮本武蔵の『五輪書』の中に

は『木配り』という言葉が書かれている。硬い材は土台に使い、見栄えの良い材は床柱に使うという適材適所の考え方を説いたものであるが、これが『気遣い』の基であり、日本人が持つ配慮の精神となっている。木配りを凝縮させたものが日本の木造建築であり、皆様の力で丈夫な木造建築を建ててもらいたい」と、木造建築の振興に期待を寄せた。竹内英明神奈川県議員は「横須賀の組合は少数の組合員であるが、見事な式典を運営されていることに頼もしさを感じる。少数になっても組合員は夢を語り、前を向いている。これからも組合が未来に続いていくようにサポートしていく」と、行政の立場から組合への支援に言及。田辺昭人横須賀市議会議員は「建具製品が規格化の流れにある中、組合は技術の大切さを訴え、技能継承に取り組んでいる。横須賀の万代会館は数奇屋造りの建物であり、歴史的建築物ゆえに耐震性に問題があると言われているが、伝統家を存続させることに決まった。組合の皆様には今後技術と木の温もりを市のために伝えて欲しい」と、木の文化の継承を要望した。